

自動車産業の生産拠点の再編と貿易構造の変化

- トルコ自動車産業の対 EU 貿易

跡見学園女子大学 比佐優子

一橋大学 比佐章一

要約

ヨーロッパ市場における自動車業界の再編はEUの統合、単一市場の形成によって、急速に進展をみせ、各社の生産体制は各国にまたがり、拠点を形成し国際貿易によって結ばれるようになった。このようななか、昨年はサブプライム問題に端を発した世界的な金融危機の拡大によって、自動車メーカー各社の業績は大幅な落ち込みを示した。北米の自動車産業の再編の動きが浮上するなか、近年の過剰生産能力問題や環境問題に直面する自動車産業の生産体制の動向は、1990年代に進められてきた欧州自動車会社と北米の自動車会社の合併によって欧州各地にも波及し、今後新たな再編によって、貿易構造の変化の幕開けを迎えるであろう。今後、自動車産業の再編はどのような方向に向かうのか。新たな合併、統合によって市場はどのように変化するのか。

ヨーロッパ市場では、2004年に中・東欧10カ国がEU加盟を実現し、EU25カ国体制が発足に伴い、「東方拡大」にともなう産業構造の編成が急速に進行している。特に、自動車産業では、1990年代より生産拠点の再編がおこなわれ、貿易のパターンは複雑な様相を呈しつつある。トルコのEU加盟は、2004年10月に欧州委員会が加盟交渉開始を開始したことにより、現実味を帯びてきた。加盟交渉は、政治的には難航し長期化の様相を呈しているが、経済面ではEU市場にむけ急速に構造変化を遂げている。なかでも、自動車産業においては、2000年以降ヨーロッパ市場への生産拠点としての方向を固め、グローバルな戦略が推し進められている。トルコ自動車産業は、国内市場の供給に重点をおいた組み立て工場が中心であったが、ヨーロッパ市場向けの製品の生産へとシフトし、2000年以降は、EU市場への輸出を中心とした生産拠点を形成している。世界的な自動車業界の生産拠点の再編は、貿易構造にも大きな影響を与える。従来型の産業間貿易が後退し、代わって水平的および垂直的な産業内貿易の重要度が増加するのである。

本稿では、自動車産業の拠点の再編が、貿易構造にどのような変化を及ぼすのか、自動車本体と自動車部品産業に着目し、簡単なモデルを示す。その上で、事例として、トルコにおける自動車産業を取上げ、水平的および垂直的産業内貿易が共に増加傾向にあることを示す。産業内貿易の増大に寄与するメカニズムについて、EU加盟諸国との関係、FTAの締結、人的資源、立地条件等に注目し、計量経済分析をおこなうことにする。

本稿の結論として、近年の自動車産業のグローバルな生産拠点の再編による自動車本体の輸出に特化傾向が、自動車生産の拠点国（トルコ）における産業内貿易の拡大に寄与していること、それに伴い自動車部品においては垂直貿易が増加を示すことを明らかにした。